

問1 茶道における「一期一会」の精神を、その都度の茶事を一生に一度限りのものと覚悟して自己の最善を尽くすことと捉え、さらにこの態度を人生全般に広げて、各瞬間を一生に一度の覚悟で全力で生きることにより、無常を生命肯定の契機へと変えて充実した生が実現されると説いた、昭和期の日本の哲学者は誰か。 （2020年 全国公立入試 類似）

1. 久松真一 2. 西谷啓治 3. 九鬼周造 4. 和辻哲郎

問2 日本の思想史において、内面的な心のあり方と外面的な実践行為は不可分であると考えられてきた。特に幕末の志士たちの行動指針となり、真の知識は必ず主体的・実践的な行動を伴うものであるとする、陽明学の根本的な命題を何というか。 （2019年 全国公立入試 類似）

1. 知行合一 2. 万物一体 3. 居敬窮理 4. 格物致知

問3 日本の風土や思想の特質を追究したある思想家は、日本神話における神々のあり方に注目した。彼は、日本神話には唯一絶対の究極神は存在せず、最も尊貴な神とされる太陽神であっても、みずから他の神を祀るという主客の二重性をもった存在として描かれていると指摘した。この指摘を行った、著書『風土』や『倫理学』などで知られる近代日本の思想家は誰か。 （2016年 全国公立入試 類似）

1. 中江兆民 2. 和辻哲郎 3. 内村鑑三 4. 吉野作造

問4 親鸞が唱えた思想で、自力で善を行えると思い込んでいる「善人」よりも、自らの煩惱の深さを自覚し自力では救われないと自覚している「悪人」こそが、阿弥陀仏の他力救済の対象（正機）であるとする考え方を何というか。 （2011年 全国公立入試 類似）

1. 神本仏迹説 2. 悪人正機説 3. 他力本願説 4. 本地垂迹説

問5 江戸中期の儒学者である荻生徂徠は、人間は生まれつき多様であり、朱子学のように個人の内面的な修養によって道徳を完成させることは困難であると考えた。彼は、社会の秩序を維持し天下を安んじるためには、古代中国の聖人が人為的に定めた礼楽刑政の制度に従うべきであると主張した。この、社会を治めるための具体的な制度や規範を何と呼ぶか。 （2007年 全国公立入試 類似）

1. 古文辞学 2. 知行合一 3. 先王の道 4. 格物致知

問6 徳川家康をはじめとする初期の将軍に仕え、幕府の儀礼や制度の整備に深く関わった朱子学者である。自己の慎みを保つ「持敬」を重視し、天と地が分かれているように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理であると説き、武家支配の正当性を理論づけた人物は誰か。 （2021年 全国公立入試 類似）

1. 頼山陽 2. 室鳩巢 3. 林羅山 4. 林鷺峰

問7 日本の民俗学を創始した思想家は、文字による記録に残されない無名の庶民の生活や伝承に着目した。彼が、共同体の中で伝統的な生活様式や信仰を維持してきたこのような人々を指して用いた、日本人の基層文化を解き明かすための鍵となる概念は何か。 （2015年 全国公立入試 類似）

1. 国体 2. 常民 3. 平民 4. 臣民

問8 江戸時代初期の思想家である山崎闇斎が、朱子学の「敬」の倫理を中核に据え、儒学と神道を融合させることで創始した、君臣関係の絶対性を説き、のちの尊王思想の形成に大きな影響を与えた神道説は何か。 （2017年 全国公立入試 類似）

1. 復古神道 2. 垂加神道 3. 理学神道 4. 吉川神道

問9 朱子学が説く「理」を個人の主観的な思弁にすぎないと批判し、社会を治めるための具体的な制度や規範である「道」は、古代中国の先王が制作したものであると主張して、古典の言葉を直接読み解く古文辞学を提唱した人物は誰か。 （2013年 全国公立入試 類似）

1. 新井白石 2. 荻生徂徠 3. 伊藤仁斎 4. 貝原益軒